

開催地名：埼玉県さいたま市	
開催日時	令和4年3月14日（月） 14:45～15:35
開催場所	さいたま市産業文化センター
語り部	仲條富夫 （千葉県旭市）
参加者	自主防災組織、施設管理者、避難所担当職員 100～150人
開催経緯	・当区では近年地震による大きな被害が発生していないため経験が浅い。 ・行政職員・自主防災組織ともに震災に備える機運を高めることが必要。
内容	(1) 現在の活動について 震災時の困難や苦労の記憶を次につなげること、また発信することを目的として、震災後の翌年8月5日に「希望の鐘」として活動することになった。災害時は心のケアも大事なので、いろいろな言葉をかけ合って協力するということが大切である。相談できる人や、大丈夫と声掛けできる人の存在が大切となることも分かった。 (2) 避難後の対応 震災後は避難先にキッチンがあり、町内の方と集まり、炊き出しや炊飯をすることができた。寒さのために体も冷えていたので、毛布も水も必要となったが、避難物資を受け取るには避難所に行くことが必要になっていた。 被災後は震災の情報が入らないと不安になるので、情報入手手段も必要となっており、内容がしっかりしていることも不安を取り除くためには重要であった。発災から48時間後に、ボランティアの方がサポートに来て下さった。水分の配給については、ペットボトルの配給が当初は1家族に1本あったが、4日後は2本になり、その後、お茶やジュースが配給されるようになっていった。避難をしている最中には、避難している方々の人数の把握や避難時の混乱、また発災直後に車を使用することの危険性を覚えておいていただきたい。 避難所に避難している方々は、小学校2校が集まる地区だったため1,800人という非常に沢山の人が集まった。災害時でも残念なことに、いろいろなことを勘違いする方も中にはいた。自身の地区では自分の家のように振る舞って、わがままを言う方も見られた。ボランティアの方が来て配給や支援などが行われていたが、食事の配給の内容を選んでしまう方も出現し、お弁当に人気が続いたり、おにぎりだと不要という人もいるなど、いろいろなトラブルや問題も起こっていた。また、仮設住宅の場所について文

	句を言う方も出ていた。当然のことではあるが、災害が発生している際には誰もが極限状態であることを、是非理解して行動していただきたい。 (3) その後の地域防災活動 何も訓練をしていない場合、災害が起こって避難の準備をしようと考えたと、最短で準備をしても 10 分はかかってしまう。このため避難訓練などを行う際には、避難までの行動をスムーズにするための練習なども実施している。 まずは「自分が助かる、近所の人が助かる」ということを第一に考えていただきたい。大規模な災害が発生した場合、公助がくるまでには 1 週間程度かかってしまう。そのような点も理解した上で、周囲の方々と助け合うことの重要性を覚えて居ていただきたい。 実際に、避難所ではさまざまな年齢の方が一緒に過ごすため、避難が長期にわたる場合はいろいろな対策が必要となる。また普段の暮らしという観点では、防災マップについて確認することも有効だ。いざというときに危険に対してどのように対応していくか。例えば地震後、津波の可能性がある場合に川を渡って避難する危険性なども、しっかりと理解しておく必要がある。
開催地より	避難所での非難が長期になった場合の防災会での役割対応に対し、伺った実例をもとにどのように対応するかを検討したい。またボランティアの方々への対応が難しいことを感じた。